

国営吉野ヶ里歴史公園管理運営プログラム



令和3年6月

国土交通省 九州地方整備局

— 目次 —

1. 全体計画及び開園状況 1

(1) 全体計画 1

(2) 供用の経緯 6

(3) 入園者数の推移 7

(4) 公園のストック効果 8

2. 令和7年度までの管理運営の方針等 10

(1) 令和7年度までの管理運営の重点事項 10

(2) 管理運営方針 11

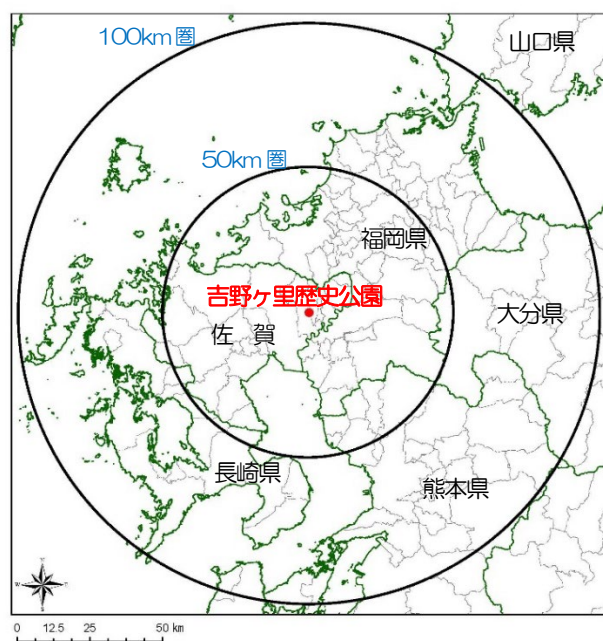
(3) 事業効果 16

1. 全体計画及び開園状況

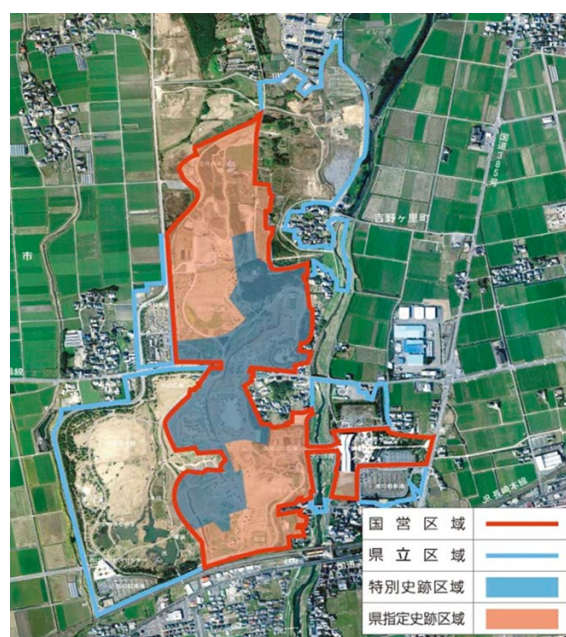
(1) 全体計画

国営吉野ヶ里歴史公園は、我が国固有の優れた文化的資産であり、平成3年5月に国の特別史跡に指定された吉野ヶ里遺跡の保存と活用を図るため、都市公園法第2条第1項第2号口の規定に基づき平成4年10月の閣議決定を受け事業化された、計画面積約54haの国営公園です。さらに、遺跡の環境保全と歴史公園としての機能の充実を図るため、佐賀県立公園約63haと一体となった、総面積約117haの吉野ヶ里歴史公園として整備しており、国営区域は平成28年度の「古代の森」の開園により概成開園しました。

国営区域では、その大半（約50ha）が特別史跡区域を含む史跡指定地であることから、遺構面が傷つかないように保存盛土等の処置を講じた上で弥生時代の環壕集落を復元し、「弥生人の声が聞こえる」という基本テーマのもと公園整備を進めてきました。



<位置図>



<区域図>

基本テーマ

「弥生人の声が聞こえる」

基本方針

- ・ 遺跡の保存と活用
- ・ 魅力ある風景・環境づくり
- ・ 新しい歴史文化の創造
- ・ 国際交流の拠点として
- ・ レクリエーション環境の整備
- ・ 地域振興の一翼を担う

○入口ゾーン

- 公園のメインゲートです。公園施設を紹介するガイダンスルームやミニシアター、レストランのある「歴史公園センター」を中心としたエリアで、他には「天の浮橋」や駐車場などがあります。

歴史公園センター



公園のメインゲートで、JR吉野ヶ里公園駅からの入口です。ガイダンスルーム・ミニシアター、休憩所や多目的ルームを備えています。レストラン・売店を併設しています。

天の浮橋（あまのうきはし）



入口ゾーンと環壕集落ゾーンを結ぶ橋梁です。「弥生人と現代人の声が行き交う橋、歴史のロマンとゆとりの水平空間」を基本テーマとして造られました。

○環壕集落ゾーン

- 階層の高い人たちが暮らしていたといわれる「南内郭」やクニのまつりごとを司った所といわれる「北内郭」からなるエリアです。弥生時代の吉野ヶ里の景観を楽しむことができます。

南内郭（みなみないかく）



物見やぐら4棟や王の家、煮炊き屋など、王たちの居住空間も含め20棟の建物が復元されています。

北内郭（きたないかく）



吉野ヶ里集落の中で最も重要で神聖な場所とされており、当時のまつりごとが行われていた所と考えられています。巨大な祭殿をはじめ、9棟の建物が復元されています。

北墳丘墓（きたふんきゅうぼ）



約 2100 年前の歴代の王やそれに近い身分の人が埋葬された特別な墓です。墳丘の中からは 14 基の甕棺が出土し、そのうち 1 基には青銅の剣とガラスの管玉が、7 基には青銅の剣が埋葬されていました。

倉と市（くらといち）



吉野ヶ里の「クニ」の交易の中心地と考えられています。出入りを監視するやぐらや物を保管する倉庫、市を管理する市楼など 31 棟の建物が復元されています。

南のムラ



「下戸」と呼ばれる一般の人々が住んでいた区域で、竪穴住居や高床倉庫など 27 棟の建物が復元されています。

弥生くらし館



南のムラのガイダンス施設及び体験工房です。体験工房では勾玉づくり・火おこし体験など、体験プログラムの受付を行っています。

○古代の原ゾーン ・各種イベントなどができるエリアです。

祭りの広場



祭りの広場は、かつて祭祀が行われていた北墳丘墓を望む場であり、北墳丘墓や北内郭を背景として、各種イベントが行える広場です。

ソバ畑



祭りの広場内の畑では季節ごとに、白ソバ、赤ソバ、ベニバナなどを栽培しています。10 月は白ソバ、11 月は赤ソバの花を咲かせます。栽培したソバを使ったソバ打ち体験を実施しています。

○古代の森ゾーン

- ・12haの敷地には「古代植物の森」、「甕棺墓列」、「古代の森体験館」などがあり、公園北部に広がる背振山系の在来植物を、土壌を含め移植することで、弥生時代の森を再現し、さまざまな学習や生活体験などが楽しめるエリアです。

古代植物の森



古代植物の森は、花粉・種子分析などの調査結果をもとに、弥生時代の樹林を推定し、当時の森の再現を図っており、観察や散策等ができます。

甕棺墓列（かめかんぼれつ）



全長300メートルにわたり、約500基からなるスケールの墓列を中央の墓道とともに再現しています。

古代の森体験館



古代植物の森の拠点となる施設で、森を通じた様々な学習・体験ができます。組ひも、染色体験などの体験プログラムの受付を行っています。



ひみか やよい
〈公園マスコットキャラクター〉

(2) 供用の経緯

国営吉野ヶ里歴史公園が位置する地域は、昭和 56 年に工業団地計画が持ち上がり、昭和 61 年から大規模な発掘調査が開始されました。平成 3 年 5 月に吉野ヶ里遺跡が国の特別史跡に指定されたことを契機に、官民一体となった取組が推し進められました。

その結果、平成 4 年 10 月の閣議決定を受け国営公園として事業化され、平成 5 年 3 月の都市計画決定、同年 5 月の基本計画の策定、平成 6 年 3 月の都市計画事業の承認を経て、平成 7 年 11 月より整備が進められ、平成 28 年度に概成開園しました。

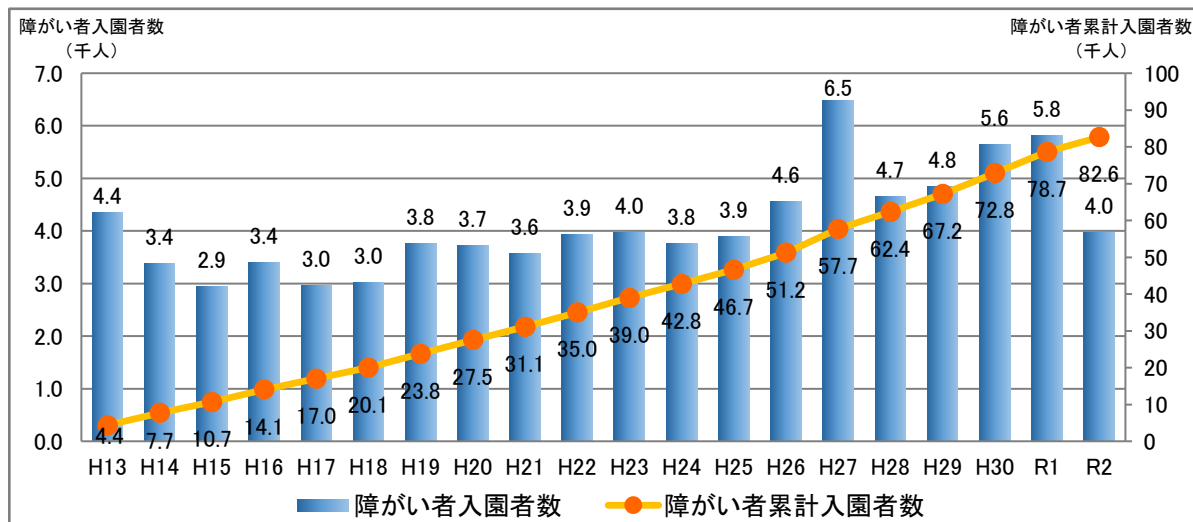
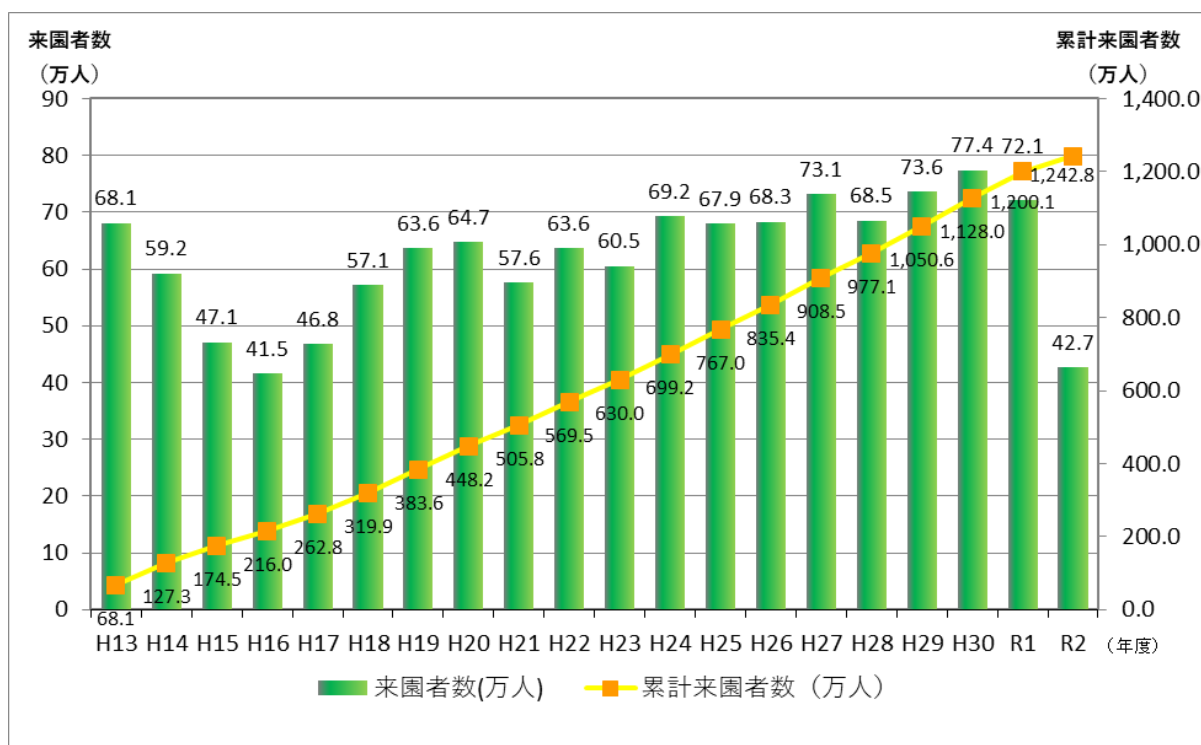
年 月	項 目	供用面積
昭和56年6月	工業団地の検討着手	
昭和61年5月	文化財の発掘調査開始	
平成3年5月	吉野ヶ里遺跡が特別史跡に指定	
平成4年10月	閣議決定	
平成5年3月	都市計画決定	
平成7年11月	工事着手	
平成13年4月	歴史公園センター、北内郭、南内郭等供用開始	16.3ha
平成14年4月	環壕入口広場の一部供用開始	0.9ha
平成15年4月	環壕南広場（南のムラ）外周園路供用開始	2.2ha
平成17年4月	祭りの広場供用開始	7.4ha
平成18年4月	南内郭広場の一部供用開始	0.8ha
平成19年10月	環壕南広場（南のムラ）供用開始	9.0ha
平成20年2月	北墳丘墓供用開始	1.7ha
平成25年3月	古代の森供用開始	11.0ha
平成25年6月	古代の森の一部、北内郭広場供用開始	1.6ha
平成26年4月	入口ゾーン（東墳丘墓）供用開始	0.4ha
平成28年4月	古代の森の一部供用開始・概成	1.5ha
	供用面積 計	52.8ha

(3)入園者数の推移

開園した平成 13 年度の年間来園者数は約 68 万人でしたが、オープン効果の希薄化や北部九州観光の低迷等により来園者数は年々減少し、平成 16 年度には 40 万人程度まで落ち込みました。しかし、平成 17 年度に利用促進行動計画を策定し、福岡都市圏への重点的な広報活動、効果的な媒体を活用した広報、イベントの充実、体験プログラムなどを実施した結果、増加に転じました。

現在では、年間を通して実施している弥生体験プログラムやインバウンド（訪日外国人観光客）の増加、及び県立公園の遊具リニューアルやイベントの増加により来園者数が更に増加し、平成 30 年度には開園以来最高の 77 万 4 千人を記録しました。

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、累計来園者数は 1,242 万人に達しており、障がい者入園者数も増加傾向にあります。



(4)公園のストック効果

吉野ヶ里歴史公園では、吉野ヶ里遺跡の保存と活用を図りつつ、地域に根ざした都市公園として、適時適切に運営維持管理を行い、以下の多様なストック効果を発揮しています。

○歴史文化伝承・学習効果(楽しみながら歴史に対する理解を深めることができる場の提供)

弥生時代の体感を目指し、多様な体験プログラムの提供や出土遺物の展示、考古学展等を通して、来園者が楽しみながら、歴史に対する理解を深めることができるようになります。

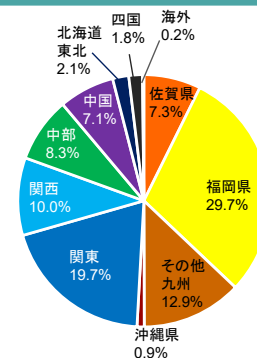


＜体験プログラム参加者数＞

吉野ヶ里歴史公園は、日本の古代の歴史を知る上で貴重な施設であることから、佐賀県内小学校の社会科見学のみならず、九州各県および全国から修学旅行先として活用されており、団体利用として年間7～9万人の利用があり、日本の歴史を知る上で重要な生きた教材となっています。体験プログラムも令和2年度を除く過去5年間に於いて、年間平均約22万人が参加（入園者の約3割が参加）しています。

○観光振興促進効果

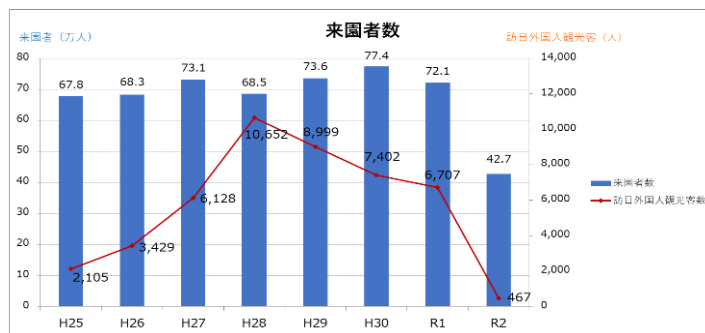
吉野ヶ里歴史公園への来園は、約9割が佐賀県外からの来園者であり、関東・関西・中部など遠方からも多く来園しています。佐賀県観光客動態調査によると、吉野ヶ里町の観光客数（平成30年度）は154.8万人、吉野ヶ里歴史公園入園者数（平成30年度）は77.4万人であり、吉野ヶ里町観光客数の5割に相当し、地域の観光振興に貢献しています。



＜来園者の居住地（令和元年度公園利用実態調査）東口＞

国内への海外旅行者に対応するため、令和元年度には日本政府観光局の外国人観光案内所の認定を取得しています。

また、園内のWi-Fi環境整備、パンフレットや園内サインの多言語化、多言語音声ガイドの導入、外国語対応可能なスタッフの配置等を行っており、令和2年度を除く過去5年において年間平均約8千人の訪日外国人観光客が来園しています。



＜訪日外国人観光客利用状況推移＞

○地域活性効果（地域に根ざしながら活性化に貢献する公園づくり）

地域住民による公園の管理運営への参加等を通して、地域に対する誇りの醸成、社会参画の促進や、地域の活性化に貢献しています。

平成 22 年 3 月から地元商工会主催により毎月開催されている「吉野ヶ里夢ロマン軽トラ市」は、毎回 1 万人前後の来園者（累計約 83 万人が参加）で賑わっています。

また、毎年秋には、吉野ヶ里町主催の「炎まつり」「夏ふれあい祭り」の会場として、1 日に約 1 万～1 万 5 千人もの方が参加するなど、地域活性化に貢献しています。

（祭りの参加者数（令和元年度））

ふるさと炎まつり 32,253 人、夏ふれあい祭り 9,766 人



＜ふるさと炎まつり＞



＜夏ふれあい祭り＞

○防災・減災に関する効果（広域防災拠点や災害支援活動拠点としての利用）

吉野ヶ里歴史公園は、佐賀県地域防災計画（地震津波）において、広域防災拠点に位置付けられています。

「平成 28 年熊本地震」では、陸上自衛隊の車両中継地として、東口大型駐車場が活用され、また佐賀県等に甚大な被害をもたらした「令和元年 8 月豪雨」では、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）による災害支援活動拠点や支援車両現地待機基地として、歴史公園センターと臨時駐車場が活用されています。



＜熊本地震時の自衛隊駐留状況（平成 28 年）＞



＜TEC-FORCE による災害支援活動（令和元年）＞

2. 令和7年度までの管理運営の方針等

(1) 令和7年度までの管理運営の重点事項

国営吉野ヶ里歴史公園は、日本最大級の弥生時代の環壕集落跡である吉野ヶ里遺跡の大切さを後世に伝えるために、当公園の基本テーマ「弥生人の声が聞こえる」を実践しながら、高齢者・障がい者・訪日外国人観光客などを含めた全ての人に多様な魅力を提供し、地域との連携による活力ある経済・生活圏の形成に貢献できる公園づくりを実施しています。

一方、開園から20年が経過した現在、復元建物特有の劣化が顕著になるなど、園内施設の老朽化が問題となっています。また、古代の森ゾーンを中心とした広大な樹林の維持管理と有効活用による新たな魅力づくりなどを含め、公園全体の魅力向上により、地域活性化に資する観光資源としての役割をより一層強化していくことが求められています。

このような状況を踏まえ、令和7年度までの重点事項を以下のように決めました。

【令和7年度までの管理運営の重点事項】

- 吉野ヶ里遺跡の価値と魅力ある風景を未来に引き継ぐために、復元建物などの計画的な修繕を継続して進めます。
- 新技術や情報技術を積極的に導入しながら、園内移動や情報提供に係るユニバーサルデザイン化の取組を強化し、全ての利用者が安全で快適に楽しめる公園を目指します。
- 周辺地域の歴史・文化資産や観光施設との連携をより一層強化する取組により、地域間の交流を促進し、活力ある経済・生活圏の形成に貢献します。
- 古代植物の森を育成・管理しながら、森や復元施設等を活用し、弥生の魅力を感じることのできる新たな演出や体験プログラムを提供します。
- 防災拠点の機能強化を図り、佐賀県の広域防災拠点として、地域の防災まちづくりに貢献できる公園を目指します。

(2)管理運営方針

○利用者へのサービス向上とコスト縮減を重視した維持管理

①復元建物等の計画的な修繕による長寿命化

吉野ヶ里歴史公園の基本理念である、弥生時代を体感できる場の創出として、本物にこだわった遺跡の復元・展示があり、天然材を使用した建物を多数復元しています。これら復元建物については、部分補修と大規模補修を繰り返す計画的修繕を引き続き実施していきます。また、防腐処理材による木柵の補修等も含めて復元施設の長寿命化を図ります。

さらに、その他の公園施設も含めて、計画的な修繕・改修、新技術の活用検討等により持続可能なインフラメンテナンスの実現を図ります。



(補修前)



(補修後)

<計画的な修繕(屋根の補修状況)>



(補修前)



(補修後)

<防腐処理材による木柵の補修>

②歴史的景観づくり

植栽地（植込地、芝生、樹木、草地等）について、歴史的景観づくりとしての当初の植栽意図を踏まえ、在来種等の保護に努め、各植物の特性に配慮したうえで、適正に持続・育成するよう管理を行います。



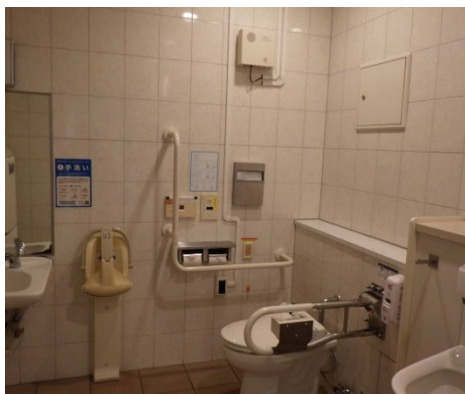
<歴史的景観づくり(ヒガンバナ畑)>



<史跡部の適切な植栽管理による歴史的景観の保全>

③利用者の快適な利用及び安全・安心の確保

誰もが快適に利用できる公園となるよう、トイレの洋式化など施設のユニバーサルデザイン化に引き続き取り組むとともに、ICT 技術等を活用しながら、案内サインの多言語化・Wi-Fi 環境の整備・園内案内システムの導入、キャッシュレス決済の検討など、利便性をさらに強化するための取組を進めます。また、新型コロナウイルスをはじめとする感染症の感染防止対策に引き続き取り組み、安全・安心に利用できる空間づくりを推進します。さらに、巡視・保安、救急対策を確実に実施するとともに、サービスの質や安全性向上のためにスタッフの指導・育成に努めます。



＜ユニバーサルデザイン整備(トイレの洋式化)＞



＜利便性の強化(案内サインの多言語化)＞

④コスト縮減と環境負荷低減、再生可能エネルギー活用取組

復元建物については、劣化進行を抑えるため、燻蒸作業などの防虫対策、強風や鳥によるヨシの抜落ち対策を継続的に実施します。また、園内の刈草等の堆肥化や太陽光発電の活用など、維持管理にかかるコストの縮減とリサイクル、再生可能エネルギーの活用に努めます。



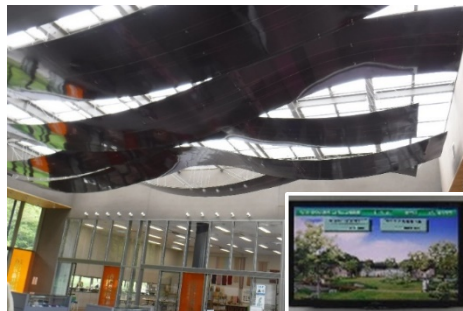
＜ヨシの抜落ち対策(飛散防止等網掛け)＞



＜防虫対策(燻蒸作業)＞



＜リサイクル(刈草等の堆肥化)＞



＜景観に配慮した太陽光パネルの設置＞

○吉野ヶ里歴史公園の多様な魅力を掘り起こし、幅広く提供する公園の運営

①吉野ヶ里遺跡の活用

特別史跡としてその価値をより高めるために、遺跡のさらなる活用という視点に立って、復元施設及びそのエリアを活用した展示・解説・体験事業をより一層強化していきます。これにより、楽しく学べ、そして弥生時代を体験・体感できる新しい歴史文化を創造できる公園づくりを行います。

②行催事・体験プログラムの充実による多様なニーズへの対応

魅力ある公園とするために、勾玉づくりや火おこし体験、竪穴住居での宿泊体験など、弥生時代を想起させる魅力ある体験プログラムをさらに充実させていきます。



＜勾玉づくり＞



＜火おこし体験＞

③古代植物の森の育成・管理と有効活用

弥生時代の森を再現するため、古代植物の森の育成・管理を計画的に実施するとともに、森の自然を体験できるプログラムや環境学習を充実させることにより、公園の新たな魅力として有効活用を図ります。

④訪日外国人観光客の利用促進

訪日外国人観光客のより一層の利用促進に向け、佐賀県や地元自治体のインバウンド対策との連携を強化し、国内外での幅広い広報を行います。

また、外国語対応スタッフの充実や外国語ガイドツアーの展開を図ります。



＜国外での広報活動(台湾での鋳込体験)＞



＜国外での広報活動(タイでのPR)＞

○多様な主体の参加と地域との連携

①地域の方々との協働による公園運営

地域の方々に愛される公園を目指し、実際に参加、体験しながら楽しむ公園運営を進めます。

このため、地域の方々と連携して共に考え、行動できるよう、引き続き公園運営に携わっているボランティアの方々と良好な関係を構築していきます。

また、古代植物の森の保全に関する作業も含めて新しいボランティアを継続的に募集し、公園内での活動の支援に努めます。



〈ボランティア活動(体験プログラムの指導)〉



〈ボランティア活動(園内ガイド)〉

②活力ある経済・生活圏の形成に資する取組

地元自治体と連携し、地域の行催事を積極的に誘致します。また、周辺地域の歴史・文化資源や観光施設との連携利用をより強化する取組により、観光レクリエーションネットワークの拠点としての集客力を高め、活力ある経済・生活圏の形成に資する公園を目指します。



〈地域の行催事誘致(「炎まつり」会場として園内施設を活用)〉



〈地元自治体との連携(毎月開催の軽トラ市)〉

③県立区域と連携した多様な魅力の提供

県立区域では、歴史ロマンが感じとれる「魅力ある風景の公園」づくりと、四季を通じて誰もが一日中気持ちよく楽しく過ごせるような「楽しい公園」づくりが目指されており、歴史的景観づくりに配慮しつつ、年間を通じて多彩な催し物、イベントが開催されています。

このような県立区域での取組との相乗効果を高めるため、行催事、利用案内、広報などについて緊密に連携した公園運営をより一層推進し、様々な利用者層に楽しんで頂ける多様な魅力を提供していきます。



＜県立公園との連携イベント(さが桜マラソン)＞



＜連携イベント時の園内の状況(遊びの原)＞

④地域産業の参画促進

これまで実施してきた吉野ヶ里夢ロマン軽トラ市との連携を継続するとともに、園内においても地域の方々の参入を促進し、魅力的な地場産品を活かした飲食・物販を提供していきます。

⑤地域の広域防災機能向上への貢献

吉野ヶ里歴史公園は、佐賀県の広域防災拠点として位置付けられています。公園の管理運営においては、県や地元自治体の計画等と連携し、地域の広域防災機能の向上に貢献します。

また、発災時における公園施設の利活用を念頭に置き、歴史公園センターに非常用電源設備が使用できる部屋を増やすなど、防災拠点としての機能強化を図ります。

(3)事業効果

今後5年間、管理運営方針に基づいた施策を進めることにより、以下のような事業効果の発揮が期待できます。

○歴史文化伝承効果の適切な維持

- ・長寿命化計画に基づき、復元建物の計画的な補修・更新を継続的に実施することで、我が国を代表する優れた文化的資産が適切に保全され、後世に継承することができます。

○地域活性化効果及び観光振興効果の強化

- ・弥生時代の自然環境・復元施設の保全に加えて、多彩な魅力ある体験プログラムの充実を図ることで、より楽しみながら弥生時代を体験・体感できるようになり、歴史の学習効果や広域での観光利用を促進する効果が向上します。



＜体験プログラム(竪穴式住居宿泊体験)＞



＜体験プログラム(そば収穫体験)＞

- ・多様な主体の参加と連携を図ることで、まちづくりの核として地域の活性化に寄与します。
- ・施設のユニバーサルデザイン化や利便性・安全性向上の取組を推進することで、高齢者、障がい者、訪日外国人観光客を含む全ての利用者が快適・安全に公園を利用できる環境が整い、来園者数の増加や満足度の向上が期待できます。



＜多様な主体の参加と連携(毎月行われる軽トラ市)＞



＜海外来園者向け環境の整備(Wi-Fi 整備)＞

○自然環境保全・活用効果の強化

- 古代植物の森の育成や管理を計画的に実施することで、地域の自然環境保全が図られるとともに、森の自然を体験できるプログラムの充実等により、歴史だけでなく広大な自然というストックを活用したレクリエーションや環境学習機能が強化され、公園の魅力が高まります。
- 園内の刈草等の堆肥化や再生可能エネルギーの活用に取り組むことで、リサイクルによる環境負荷の低減、脱炭素社会の実現に寄与します。

○地域における防災・減災効果の強化

- 災害支援活動拠点等としての利活用を想定した広域防災拠点機能の強化により、災害発生時に迅速な対応が可能となり、地域における防災・減災効果が強化されます。

◆ なお、本プログラムは、公園整備・管理を巡る社会情勢の変化、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っています。